

第65回東海財界倶楽部例会を開催

大会は愛知・名古屋のさらなる発展の好機

開催日：2025年8月8日 開催場所：ホテルオークラレストラン名古屋 14F 光の間

弊社主催の異業種交流会「東海財界倶楽部」の例会が8月8日、名古屋市東区東桜のホテルオークラレストランで開催された。講師は来秋当地で行われる「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会」組織委員会の村手聡事務総長。村手氏は両競技大会の意義や概要についてパワーポイントで分かりやすく説明し、大会は愛知、名古屋の発展の好機として「地域の皆さんと一緒に盛り上げ、大会をより良いものにしていきたい」と理解と協力を求めた。会場では経営者や政官界関係者ら約40人が熱心に聞き入り、大会の成功、愛知の活性化への思いを巡らせていた。



村手聡事務総長

第20回アジア競技大会は2026年9月19日ー10月4日、41競技が愛知、名古屋を中心に静岡（自転車）、東京（水泳、馬術）、大阪（サッカー）の計53競技会場で行われる。選手団は最大15,000人。競技数はパリ五輪の32を上回り、カバディ、セパタクローなどアジア各地の人気競技やEスポーツ、クリケットなど大規模な総合大会では見られない競技もあり、観客の関心を刺激しそう。第5回アジアパラ競技大会は26年10月18日ー24日、18競技が愛知県内の19会場で行われる。選手団は約4,000人。両大会とも45の国、地域から参加、名古屋市瑞穂公園陸上競技場をメイン会場に開催。アジア大会の国内開催は32年ぶり3回目、アジアパラ大会は国内で初めて。2020年東京オリンピック（21年開催）が無観客で、パリ五輪から2年、ロサンゼルス五輪まで2年というタイミングでの総合スポーツ大会となり、有力選手の出場も期待される。

講演で村手氏は、地方から東京圏への転入が145,000人となった2019年をピークにコロナ禍もあり減少したが、22年から再び上昇傾向にあり、24年の東京圏転入者数の第1位は愛知県からで、2位が大阪府だったと止まらぬ東京一極集中に警戒機感を示した。一方で21年度の愛知県のGDP（国内総生産）が対前年の増加率20%と、東京、大阪を抜いて全国トップだったと愛知の底力を評価し、アジア大会、アジアパラ大会を愛知・名古屋のさらなる発展につなげる好機、と語った。

村手氏は一宮市出身で、東大卒業後自治省入省。熊本、高知県で勤務、岡山市副市長、群馬県副知事を務め地方行政に精通するとともに復興庁、総務省自治大学校長も歴任。23年7月に現職に就き、地元愛知の発展に貢献したいとの熱い思いが伝わる講演となった。

両大会の概要を説明し、その意義についてアジア大会ではトップアスリートの交流、有観客・スポーツの魅力の体感、子ども達のあこがれ・目標、地域活性化、アジアパラ大会では障害への理解促進、共生社会の実現・社会変容などを挙げた。また、村手氏は経済波及効果が全国で2兆円から3兆円とする見方を紹介。同時に経費節減に努め、持続可能な大会運営モデルを目指していると強調した。

既存のスポーツ施設を活用し、選手村は整備せず、名古屋市内開催競技の選手の宿泊をガーデンふ頭の移動宿泊施設と金城ふ頭に停泊するクルーズ船で計6,000人規模の宿泊を確保。大会経費は物価高騰、人件費上昇などで調整中だが、国の支援方針もあり、パートナー企業の参加や寄付の呼びかけを続けるという。大会ボランティアは18,000人に約3万人が応募するなど人気で、愛知県内の大学と連携した様々な企画、イベントの実施状況にも触れた。

開催まで400日ほどに迫り、村手氏は今後の予定を説明。今年9月以降に公式チケット販売サイトをオープン、ID登録開始。競技スケジュール承認後に関係者販売第一次受付、海外代理店で先行販売開始、26年1月ごろ一般向け先行販売開始、6月ごろから一般販売開始の予定。開催1年前イベントの広報展開として9月20日、23日には中部電力MIRAI TOWER（名古屋テレビ塔）で、10月以降JRゲートタワー、岡崎中央総合公園総合体育館などでプロモーションを展開する。

最後に村手氏は「地域の方々にも参加してもらい、愛知、名古屋がこの機会を利用して開催後にも効果が続くよう、ビジネスや国際貢献に繋げていっていただきたい。大会成功へ向けて（組織委員会としても）頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします」と締めくくった。

講演後は懇談会に移り、車雄基・駐名古屋大韓民国領事館副総領事が「日韓国交正常化60周年の年にアジア大会・パラ大会について教えていただいた。大会のレガシーが地域の発展につながるよう期待します」などとあいさつして乾杯の発声を行い、参加者は和やかに歓談した。



村手事務総長の「アジア・アジアパラ競技大会」の話に熱心に耳を傾ける参加者